アーカイブ室新聞　（2010 年 1 月 27 日　第 277 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊　オバケ（太陽分光写真儀室）の古い写真発見

太陽分光写真儀室は大正 9 年建設である。この建物にはスペクトロヘリオスコープ、サイデロスタットを用いたカルシウム K 線分光器があった。東京天文台時代にはこの建物は「オバケ」と呼ばれていた。建設当時の建物の周囲は開けていたが、そのうち木立の中にあったので全貌が分かる写真はなかなか見つからなかった。

今回、井上四郎の遺品の中に塔望遠鏡のベランダから撮影したと思われる古い写真を発見した（写真 1）。これは「オバケ」を西側上方から撮影していることになる。右手にはブラッシャー天体写真儀のドームが写っている。天体写真儀室が建設されたのが大正 13 年、塔望遠鏡が建設されたのが大正 15 年、井上四郎が東京天文台に在職したのが大正 9 年 2 月～昭和 7 年 2 月であるから、全てが符合する。

写真 1　塔望遠鏡ベランダから見たオバケとブラッシャー天体写真儀ドーム

太陽分光写真儀室は、東京天文台 75 周年誌に掲載されている建物では最も古い建物であり、平屋の木造である。なぜ「オバケ」と呼ばれたかは伝わっていない。分光写真儀室であったから昼間から中は真っ暗だったはずでいかにも不気味だったと思われる。後に太陽分光写真儀室の東側に 30cm 望遠鏡ドームが建設され、南側に太陽単色写真儀（モノクロ）が建設された。またモノクロの南西部の南側の斜面に向かう辺りには人工衛星追跡用のベーカーナンシュミットカメラが置かれ、流星写真儀もその近くにあるといった状況で三鷹での観測の一大拠点を形成していた時代もあった。

大型光学赤外線望遠鏡計画を端に発して、東京天文台が国立天文台に改組転換されることになり、東京大学に残すことになった 3 部門の施設用地として、このあたり一帯が東京大学に残され、これらの観測装置は、新鋭の観測装置に更新され、新しいフレア望遠鏡な

どは天文台構内の西のほうに移転した。オバケ部分の拡大写真が写真 2 である。

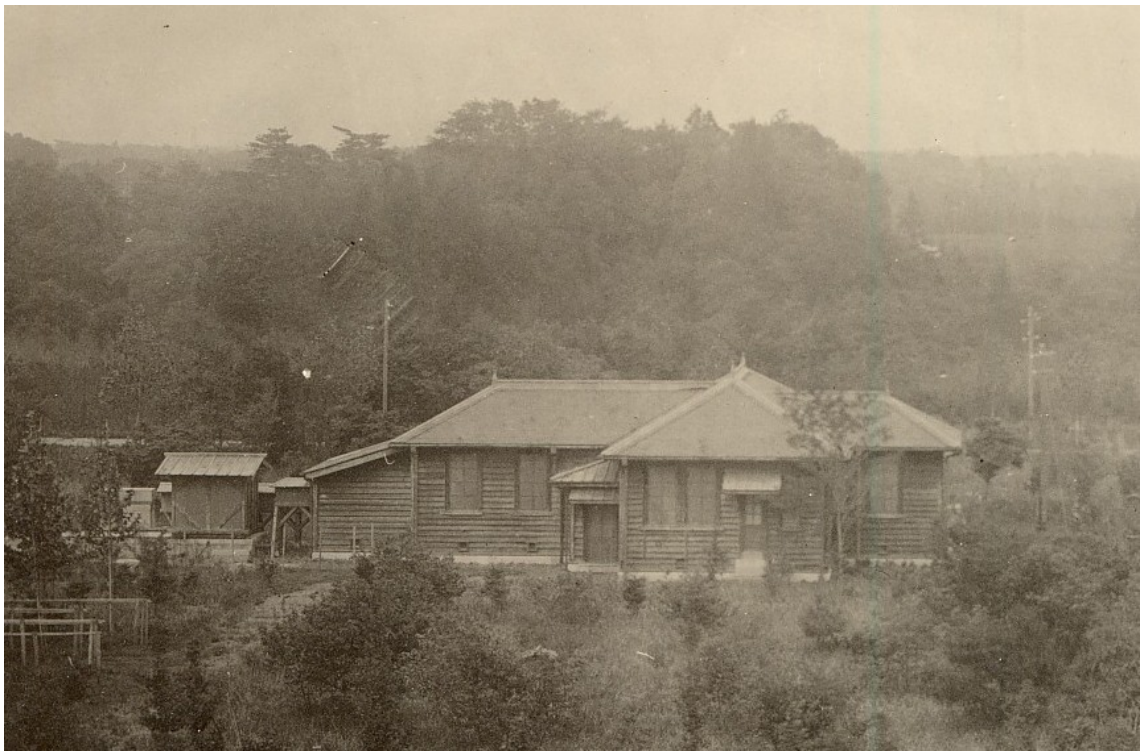

写真 2　オバケ部分の拡大写真

比較的新しい太陽分光写真儀室の写真が岡本富三氏の手によって残されており、入江氏を経て筆者の手に渡った写真が、写真 3、4 である。

写真 3　南側からの写真

写真 4　北側からの写真

このように、木立に囲まれるようになってからは、太陽写真儀室（オバケ）は全貌を撮影するのは難しくなり、今回発見した井上四郎の時代の写真まで遡らなければならない。